VMware vSphereシステムへのUnified Managerのインストール

Active IQ Unified Manager

NetApp
November 13, 2026

This PDF was generated from https://docs.netapp.com/ja-jp/active-iq-unified-manager-918/install-vapp/concept_introduction_to_unified_manager.html on November 13, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

VMware vSphereシステムへのUnified Managerのインストール 1
Active IQ Unified Manager について学ぶ 1
Active IQ Unified Manager について学ぶ 1
Active IQ Unified Manager サーバーの機能について 1
Active IQ Unified Manager のインストール手順について 1
Unified Managerをインストールするための要件 2
サーバーが Active IQ Unified Manager のインストール要件を満たしていることを確認してください 2
Active IQ Unified Manager の仮想インフラおよびハードウェア要件について 2
Active IQ Unified Manager のVMwareソフトウェアとインストール要件について説明します 4
Active IQ Unified Manager でサポートされているブラウザを使用してください 4
Active IQ Unified Manager のプロトコルとポートの要件について 5
Active IQ Unified Manager でワークシートを完成させてください 8
VMware vSphere 上での Unified Manager のインストール、アップグレード、および削除 9
Active IQ Unified Manager の導入プロセスについて学ぶ 10
Unified Manager仮想アプライアンスの展開ワークフロー 10
Unified Manager仮想アプライアンスのアップグレードワークフロー 14
Active IQ Unified Manager 仮想マシンを再起動する 17
Active IQ Unified Manager の削除 18

VMware vSphereシステムへのUnified Managerのインストール

Active IQ Unified Manager について学ぶ

Active IQ Unified Manager について学ぶ

Active IQ Unified Manager（旧OnCommand Unified Manager）では、ONTAPストレージシステムの健全性とパフォーマンスを一元的に監視および管理することができます。Unified Managerは、LinuxサーバやWindowsサーバに導入できるほか、VMwareホストに仮想アプライアンスとして導入することもできます。

インストールの完了後、管理対象のクラスタを追加すると、Unified Managerのグラフィカル インターフェイスに、監視対象ストレージ システムの容量、可用性、保護、パフォーマンスのステータスが表示されます。

関連情報

"NetApp Interoperability Matrix Tool"

Active IQ Unified Manager サーバーの機能について

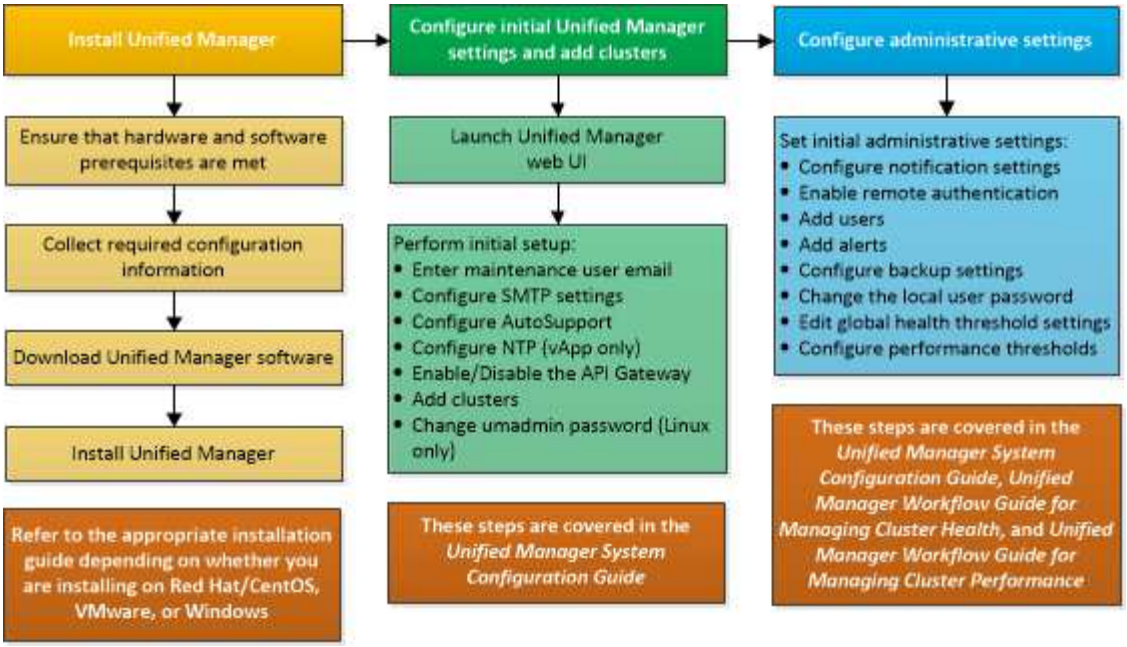
Unified Managerサーバーのインフラストラクチャは、データ収集ユニット、データベース、およびアプリケーションサーバーで構成されています。検出、監視、ロールベースのアクセス制御（RBAC）、監査、およびログ記録などのインフラストラクチャサービスを提供します。

Unified Managerはクラスタ情報を収集し、そのデータをデータベースに保存し、データを分析してクラスタに問題がないかどうかを確認します。

Active IQ Unified Manager のインストール手順について

インストールワークフローには、Unified Manager を使用する前に実行する必要があるタスクが記載されています。

以降の各セクションでは、このワークフローの各項目について説明します。



Unified Managerをインストールするための要件

サーバーが **Active IQ Unified Manager** のインストール要件を満たしていることを確認してください

インストール プロセスを開始する前に、Unified Managerをインストールするサーバが、ソフトウェア、ハードウェア、CPU、およびメモリに関する所定の要件を満たしていることを確認します。

NetAppはUnified Managerアプリケーション コードの変更をサポートしていません。Unified Managerサーバにセキュリティ対策を適用する必要がある場合は、Unified Managerがインストールされているオペレーティング システムに変更を加える必要があります。

Unified Managerサーバへのセキュリティ対策の適用の詳細については、ナレッジ ベースの記事を参照してください。

"Supportability for Security Measures applied to Active IQ Unified Manager for Clustered Data ONTAP"

関連情報

詳細については、 "NetApp Interoperability Matrix Tool"を参照してください。

Active IQ Unified Manager の仮想インフラおよびハードウェア要件について

Unified Managerを仮想インフラまたは物理システムにインストールするには、メモリ、CPU、およびディスク スペースの最小要件を満たす必要があります。

次の表に、メモリ、CPU、およびディスク スペースの各リソースについて、推奨される値を示します。これらは、Unified Managerが許容されるパフォーマンス レベルを達成することが確認されている値です。

ハードウェア構成	推奨設定
RAM	12 GB
プロセッサ	CPU×4
CPUサイクル	合計9572MHz（最小要件は9572MHz）
空きディスク スペース	• 5GB（シンプロビジョニング） • 152GB（シックプロビジョニング）

Unified Managerはメモリ容量の少ないシステムにもインストールできますが、推奨される12 GBのRAMを搭載することで、最適なパフォーマンスに必要なメモリが確保され、構成の拡張に伴って追加のクラスタやストレージオブジェクトをシステムが収容できるようになります。Unified Managerを導入するVMにはメモリの上限を設定しないでください。また、ソフトウェアがシステムで割り当てられているメモリを利用できなくなる機能（バルーニングなど）は有効にしないでください。

さらに、1つのUnified Managerインスタンスで監視できるノードの数には上限があり、この上限を超える場合は2つ目のUnified Managerインスタンスをインストールします。ノード制限、CPU、メモリの推奨事項については、"Unified Manager のベストプラクティスガイド"を参照してください。

メモリ ページのスワッピングは、システムや管理アプリケーションのパフォーマンスにマイナスの影響を及ぼします。CPUリソースがホスト全体で競合して使用できなくなると、パフォーマンスが低下することがあります。

専用使用の要件

Unified Managerをインストールする物理システムまたは仮想システムは、他のアプリケーションとは共有せず、Unified Manager専用にする必要があります。他のアプリケーションにシステム リソースが消費されることで、Unified Managerのパフォーマンスが大幅に低下する可能性があります。

バックアップ用のスペース要件

Unified Managerのバックアップおよび復元機能を使用する予定がある場合は、「`data`」ディレクトリまたはディスクに150 GBの空き容量を確保してください。バックアップは、ローカルの保存先またはリモートの保存先に書き込むことができます。最適な方法は、Unified Managerホストシステムとは別の、最低150 GBの空き容量を持つリモートロケーションを特定することです。

ホスト接続の要件

Unified Managerをインストールする物理システムまたは仮想システムは、ホスト自体からホスト名に対して正常に `ping`できるように構成されている必要があります。IPv6構成の場合は、Unified Managerのインストールを確実に成功させるために、ホスト名への `ping6`が成功することを確認する必要があります。

本製品のWeb UIには、ホスト名（またはホストのIPアドレス）を使用してアクセスできます。導入時に静的IPアドレスを使用してネットワークを設定した場合は、指定したネットワーク ホストの名前を使用します。DHCPを使用してネットワークを設定した場合は、DNSからホスト名を取得します。

完全修飾ドメイン名（FQDN）またはIPアドレスの代わりに短縮名を使用したUnified Managerへのアクセスをユーザに許可する場合は、短縮名が有効なFQDNに解決されるようにネットワークを設定する必要があります。

Active IQ Unified Manager のVMwareソフトウェアとインストール要件について説明します

Unified Managerをインストールするvmware vSphereシステムには、特定のバージョンのオペレーティングシステムと特定のバージョンのサポートソフトウェアが必要です。

オペレーティング システム ソフトウェア

サポートされているオペレーティングシステムはVMware ESXi 8.0です。

> VMware vSphere システム上の Unified Manager OVA は、内部で Debian OS 13（Trixie）を実行します。サポートされている ESXi サーバーのバージョンがサポートできる仮想マシンハードウェアのバージョンについては、VMware のドキュメントを参照してください。

サポートされるvSphereのバージョンは次のとおりです。

- VMware vCenter Server 7.0および8.0

サポートされているESXiのバージョンの最新のリストについては、Interoperability Matrixを参照してください。

"mysupport.netapp.com/matrix"

仮想アプライアンスが正しく動作するには、VMware ESXiサーバの時刻がNTPサーバの時刻と同じになっている必要があります。VMware ESXiサーバの時刻をNTPサーバの時刻と同期すると、時刻に関する障害は発生しなくなります。

インストールの要件

Unified Manager仮想アプライアンスでは、VMware High Availabilityがサポートされます。

ONTAPソフトウェアを実行しているストレージ システムにNFSデータストアを導入する場合は、NetApp NFS Plug-in for VMware VAAIを使用してシックプロビジョニングを使用します。

リソースが十分でないために導入環境でハイアベイラビリティを有効にできない場合は、[Cluster Features]の[Virtual Machine Options]の変更が必要な可能性があります。[VM Restart Priority]を無効にし、[Host Isolation Response]を[Leave Powered On]に設定します。

> Unified Managerのインストールまたはアップグレード中、必要なサードパーティ製ソフトウェアとセキュリティ パッチがVMware vSphereシステムに自動的にインストールまたはアップグレードされます。これらのコンポーネントはUnified Managerのインストールおよびアップグレード プロセスで制御されるため、サードパーティ製コンポーネントを単独でインストールまたはアップグレードすることは避けてください。

Active IQ Unified Manager でサポートされているブラウザを使用してください

Unified Manager Web UIにアクセスするには、サポートされているブラウザを使用します。

サポートされているブラウザとバージョンの一覧は、Interoperability Matrixを参照してください。

"mysupport.netapp.com/matrix"

どのブラウザでも、ポップアップ ブロックを無効にすることでソフトウェアの機能が正しく表示されます。

アイデンティティ プロバイダ（IdP）でユーザが認証されるように、Unified ManagerにSAML認証を設定する場合は、IdPでサポートされているブラウザの一覧も確認してください。

Active IQ Unified Manager のプロトコルとポートの要件について

これらのポートとプロトコルを使用して、Unified Managerサーバは管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントと通信します。

Unified Managerサーバへの接続

通常の環境では、Unified Manager Web UIへの接続に常にデフォルトのポートが使用されるため、ポート番号を指定する必要はありません。たとえば、Unified Managerは常にデフォルトポートでの動作を試みるため、`https://<host>:443`の代わりに `https://<host>`を入力できます。

Unified Managerサーバでは、次のインターフェイスにアクセスする際に特定のプロトコルを使用します。

インターフェイス	**Protocol**	ポート	説明
Unified Manager Web UI	HTTP	80	Unified Manager Web UIへのアクセスに使用され、自動的にセキュア ポート443にリダイレクトされます。
Unified Manager Web UIおよびAPIを使用するプログラム	HTTPS	443	Unified Manager Web UIへのセキュアなアクセスとAPI呼び出しに使用されます。API呼び出しはHTTPSでしか実行できません。
メンテナンス コンソール	SSH / SFTP	22	メンテナンス コンソールにアクセスしてサポート バンドルを取得する際に使用されます。
Linuxコマンドライン	SSH / SFTP	22	Red Hat Enterprise Linuxのコマンドラインにアクセスしてサポート バンドルを取得する際に使用されます。
syslog	UDP	514	ONTAPシステムからのサブスクリプションベースのEMSメッセージにアクセスし、メッセージに基づいてイベントを作成する際に使用されます。

インターフェイス	**Protocol**	ポート	説明
REST	HTTPS	9443	認証されたONTAPシステムからのREST APIベースのリアルタイムのEMSイベントにアクセスする際に使用されます。
MySQLデータベース	MySQL	3306	OnCommand Workflow AutomationおよびOnCommand API ServicesからUnified Managerへのアクセスで使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP / IP	56072	内部メッセージ通信に使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56080	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。
AMQP QPIDブローカー	TCP経由のWebSocket	56443	ONTAP（クラウドエージェント）から受信したメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。このポートを介した通信は、TLSまたはSSLによる暗号化をサポートしています。

VMware vSphere システムにUnified Managerをインストールする際、MySQLのデフォルトポートである3306はlocalhostのみに制限されます。これは、以前の構成が維持されるアップグレードシナリオには影響しません。この構成は変更可能であり、メンテナンスコンソールの`Control access to MySQL port 3306`オプションを使用することで、他のホストから接続できるようにすることができます。詳細については、"その他のメニュー オプション"を参照してください。HTTPおよびHTTPS通信に使用されるポート（ポート80および443）は、Unified Managerのメンテナンスコンソールを使用して変更できます。詳細については、"メンテナンスコンソールのメニュー"を参照してください。

Unified Managerサーバからの接続

ファイアウォールの設定で、Unified Managerサーバと管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントの間の通信に使用するポートを開いておく必要があります。ポートが開いていない場合、通信は失敗します。

環境に応じて、Unified Managerサーバから特定の接続先への接続に使用するポートとプロトコルを変更することもできます。

Unified Managerサーバは、次のプロトコルとポートを使用して、管理対象のストレージ システム、サーバ、その他のコンポーネントに接続します。

デスティネーション	**Protocol**	ポート	説明
ストレージ システム	HTTPS	443 / TCP	ストレージ システムの監視と管理に使用されます。 このポート、または他のポートを使用してVMware vCenter ServerやESXiサーバに接続する場合は、ポートが使用可能で、セキュアなサイト内で接続できることを確認してください。
ストレージ システム	NDMP	10000 / TCP	特定のSnapshotリストア処理に使用されます。
AutoSupportサーバ	HTTPS	443	AutoSupport情報の送信に使用されます。この機能を実行するにはインターネット アクセスが必要です。
認証サーバ	LDAP	389	認証要求、およびユーザとグループの検索要求に使用されます。
LDAPS	636	セキュアなLDAP通信に使用されます。	メール サーバ
SMTP	25	アラート通知Eメールの送信に使用されます。	SNMPトラップの送信元
SNMPv1またはSNMPv3	162 / UDP	アラート通知SNMPトラップの送信に使用されます。	外部データ プロバイダのサーバ
TCP	2003	外部のデータ プロバイダ（Graphiteなど）へのパフォーマンス データの送信に使用されます。	NTP サーバ

デスティネーション	**Protocol**	ポート	説明
NTP	123 / UDP	Unified Managerサーバの時間を外部のNTPタイムサーバと同期するために使用されます（VMwareシステムのみ）。	AMQP QPIDブローカー
TCP / IP	56072	内部メッセージ通信に使用されます。	AMQP QPIDブローカー
TCP経由のWebSocket	56080	ONTAP（クラウド エージェント）から受信するメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。	AMQP QPIDブローカー
TCP経由のWebSocket	56443	ONTAP（クラウドエージェント）から受信したメッセージをこのポートでリッスンするために使用されます。このポートを介した通信は、TLSまたはSSLによる暗号化をサポートしています。	syslog

Active IQ Unified Manager でワークシートを完成させてください

Unified Managerをインストールおよび構成する前に、ご使用の環境に関する具体的な情報を準備しておく必要があります。その情報はワークシートに記録できます。

Unified Managerのインストール情報

Unified Managerをインストールするために必要な詳細情報。

ソフトウェアが展開されるシステム	あなたの価値
ESXiサーバのIPアドレス	
ホストの完全修飾ドメイン名	
ホストのIPアドレス	
ネットワーク マスク	
ゲートウェイのIPアドレス	
プライマリDNSアドレス	
セカンダリDNSアドレス	
検索ドメイン	
メンテナンス ユーザのユーザ名	
メンテナンス ユーザのパスワード	

Unified Managerの設定情報

Unified Managerのインストール後に設定するための詳細情報。設定によっては、一部の値は省略可能です。

設定	あなたの価値
メンテナンス ユーザのEメール アドレス	
NTP サーバ	
SMTPサーバのホスト名またはIPアドレス	
SMTPのユーザ名	
SMTPのパスワード	
SMTP ポート	25（デフォルト値）
アラート通知の送信元Eメール アドレス	
認証サーバのホスト名またはIPアドレス	
Active Directoryの管理者名またはLDAPバインド識別名	
Active DirectoryのパスワードまたはLDAPバインド パスワード	
認証サーバのベース識別名	
アイデンティティ プロバイダ（IdP）のURL	
アイデンティティ プロバイダ（IdP）のメタデータ	
SNMPトラップの送信先ホストのIPアドレス	
SNMP ポート	

クラスタ情報

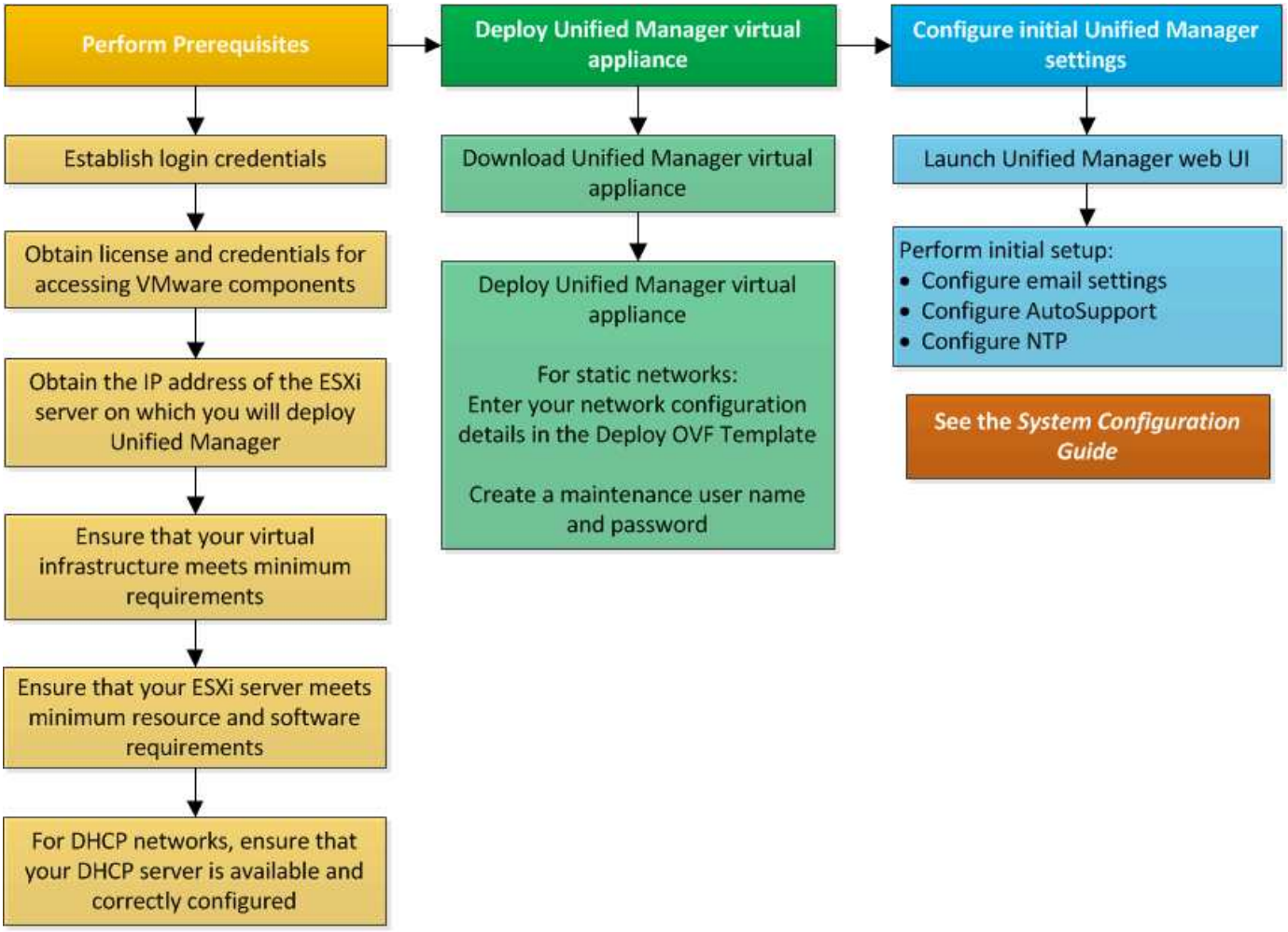
Unified Managerを使用して管理するストレージ システムの情報を記入します。

N個中のクラスタ**1**	あなたの価値
ホスト名またはクラスタ管理IPアドレス	
ONTAP管理者のユーザ名 管理者には「admin」ロールが割り当てられている必要があります。	
ONTAP管理者のパスワード	
Protocol	HTTPS

VMware vSphere 上での Unified Manager のインストール、アップグレード、および削除

Active IQ Unified Manager の導入プロセスについて学ぶ

導入ワークフローでは、Unified Managerを使用する前に実行する必要のあるタスクについて説明します。



Unified Manager仮想アプライアンスの展開ワークフロー

Active IQ Unified Manager の導入

Unified Managerの導入には、ソフトウェアのダウンロード、仮想アプライアンスの展開、メンテナンス用ユーザー名とパスワードの作成、およびWeb UIでの初期設定が含まれます。

開始する前に

- 導入のためのシステム要件を確認し、完了しておく必要があります。

  "システム要件"を参照してください。

- 次の情報が揃っていることを確認します。
  - NetApp Support Site のログイン資格情報

- VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
- Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするESXiサーバーのIPアドレス
- データセンターの詳細（データストアのストレージ スペースやメモリの要件など）
- IPv6アドレスを使用する予定がある場合は、ホスト上でIPv6を有効にする必要があります。

Unified Managerは、VMware ESXiサーバー上に仮想アプライアンスとしてデプロイできます。

メンテナンス コンソールには、SSHではなく、VMwareコンソールを使用してアクセスする必要があります。

Unified Manager 9.8以降、VMware ToolsはOpen VM Tools `open-vm-tools`）に置き換えられました。 `open-vm-tools`がUnified Managerのインストールパッケージに含まれているため、インストールの一部としてVMware Toolsをインストールする必要はなくなりました。

導入と初期セットアップが完了したら、クラスタを追加するかメンテナンス コンソールで追加のネットワーク設定を行ってから、Web UIにアクセスできます。

手順

1. "Unified Managerをダウンロード"の手順に従います。
2. さらに、"Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイする" の手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager インストールファイルのダウンロード

Unified Managerを仮想アプライアンスとして導入するには、Unified Managerインストール ファイルをNetAppサポート サイトからダウンロードします。

開始する前に

NetAppサポート サイトのログイン クレデンシャルが必要です。

インストールファイルは、ルート証明書を含む `.tar`ファイル、 `README`ファイル、および仮想アプライアンス用に構成されたUnified Managerソフトウェアを含む `OVA`ファイルです。

手順

1. NetAppサポート サイトにログインし、Unified Managerのダウンロード ページに移動します。

   "NetAppサポート サイト"

2. 必要なUnified Managerのバージョンを選択し、エンドユーザ ライセンス契約（EULA）に同意します。
3. VMware vSphere インストール用の `.tar`ファイルをダウンロードし、vSphere Client からアクセスできるローカルディレクトリまたはネットワークディレクトリに保存します。
4. チェックサムをチェックして、ソフトウェアが正しくダウンロードされたことを確認します。
5. `.tar`ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動し、ターミナルウィンドウで次のコマンドを入力してUnified Managerバンドルを展開します：

```
tar -xvzf ActiveIQUnifiedManager-<version>.tar.gz
```

必要な `OVA`ファイル、ルート証明書、およびUnified Manager用の `README`ファイルが、対象ディレクトリに解凍されます。

6. `OVA`ファイルの整合性を確認するには、 `README`ファイルに記載されている手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスの導入

インストール ファイルをダウンロードしたら、Unified Managerを仮想アプライアンスとして導入します。ESXiサーバに仮想アプライアンスを導入するには、vSphere Web Clientを使用します。仮想アプライアンスを導入すると、仮想マシンが作成されます。

開始する前に

システム要件を確認しておく必要があります。Unified Manager仮想アプライアンスを導入する前に、必要な変更を行ってください。

"仮想インフラストラクチャの要件"を参照してください。

"VMwareソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

動的ホスト構成プロトコル（DHCP）を使用する場合は、DHCPサーバが使用可能で、DHCPと仮想マシン（VM）のネットワーク アダプタが正しく構成されていることを確認します。デフォルトでは、DHCPを使用するように設定されています。

静的なネットワーク設定を使用する場合は、IPアドレスが同じサブネット内で重複していないこと、DNSサーバの適切なエントリが設定されていることを確認します。

仮想アプライアンスを導入する前に、次の情報を入手します。

- VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
- Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするESXiサーバーのIPアドレス
- データセンターの詳細（使用可能なストレージ スペースなど）
- DHCPを使用しない場合は、接続先のネットワーク デバイスのIPv4またはIPv6アドレスを取得します。
  - ホストの完全修飾ドメイン名（FQDN）
  - ホストのIPアドレス
  - ネットワーク マスク
  - デフォルト ゲートウェイのIPアドレス
  - プライマリDNSとセカンダリDNSのアドレス
  - 検索ドメイン

Unified Manager 9.8以降、VMware ToolsはOpen VM Tools *`open-vm-tools`*）に置き換えられました。`*open-vm-tools*`がUnified Managerのインストールパッケージに含まれているため、インストールプロセスの一環としてVMware Toolsをインストールする必要はありません。

仮想アプライアンスを導入すると、HTTPSアクセス用に独自の自己署名証明書が生成されます。Unified ManagerのWeb UIにアクセスする際に、信頼されていない証明書に関するブラウザの警告が表示される場合があります。

Unified Manager仮想アプライアンスでは、VMware High Availabilityがサポートされます。

手順

1. vSphere Client で、「ファイル」>「OVF テンプレートのデプロイ」をクリックします。
2. Unified Manager仮想アプライアンスをデプロイするには、OVFテンプレートのデプロイウィザードを完了してください。

   [Review Details]ページで次の操作を行います。

   - 発行者セクションの詳細を確認してください。*Entrust Code Signing - OVCS2 (Trusted certificate)*というメッセージにより、ダウンロードした `OVA`ファイルの整合性が確認されます。+ *Entrust Code Signing - OVCS2 (Invalid certificate)*というメッセージが表示された場合は、VMware vCenter Serverを7.0U3E以降のバージョンにアップグレードしてください。

     [Customize Template]ページで次の操作を行います。

   - DHCPとIPv4アドレスを使用する場合は、すべてのフィールドを空白のままにします。
   - DHCPとIPv6アドレスを使用する場合は、「`Enable Auto IPv6 addressing`」のチェックボックスをオンにし、その他のフィールドはすべて空白のままにしてください。
   - 静的なネットワーク設定を使用する場合は、各フィールドに値を指定します。ここで指定した値が導入時に適用されます。導入先のホストで一意で、使用されておらず、有効なDNSエントリが割り当てられたIPアドレスを指定してください。
3. Unified Manager仮想アプライアンスをESXiサーバーにデプロイしたら、VMを右クリックして「Power On」を選択し、VMの電源をオンにします。

   リソースが十分でないために電源投入に失敗した場合は、リソースを追加してからインストールを再試行してください。

4. 「コンソール」タブをクリックします。

   初回のブート プロセスには数分かかります。

5. タイムゾーンを設定するには、VM Consoleウィンドウのプロンプトに従って、地理的な地域と都市または地域を入力してください。

   表示されるすべての日付情報は、管理対象デバイスのタイムゾーン設定に関係なく、Unified Manager に設定されているタイムゾーンを使用します。ストレージ システムと管理サーバで同じNTPサーバが設定されている場合、違う時間が表示された場合でも、それぞれが表しているのは同じ時刻です。たとえば、管理サーバとは異なるタイム ゾーンが設定されたデバイスでSnapshotコピーを作成した場合も、タイム スタンプは管理サーバの時刻になります。

6. 使用可能なDHCPサービスがない場合、または静的なネットワーク設定に誤りがある場合は、次のいずれかを実行します。

インターフェイス	操作
DHCP	「DHCPを再試行」を選択してください。DHCPを使用する場合は、正しく設定されていることを確認してください。 DHCPが有効になっているネットワークを使用している場合、FQDNとDNSサーバーのエントリは仮想アプライアンスに自動的に割り当てられます。DHCPがDNSと正しく構成されていない場合、ホスト名「`UnifiedManager`」は自動的に割り当てられ、セキュリティ証明書に関連付けられます。DHCP対応のネットワークをセットアップしていない場合は、ネットワーク設定の情報を手動で入力する必要があります。
静的なネットワーク設定	a. 「静的ネットワーク構成の詳細を入力」を選択します。 設定プロセスが完了するまでに数分かかります。 b. 入力した値を確認し、**Y** を選択してください。

7. プロンプトで、メンテナンスユーザー名を入力し、**Enter** をクリックします。

   メンテナンス ユーザの名前は、1文字目を小文字のアルファベット（a～z）、2文字目以降をハイフン（-）、a～z、0～9を任意に組み合わせて指定する必要があります。

8. プロンプトでパスワードを入力し、*Enter*をクリックします。

   VMコンソールには、Unified ManagerのWeb UIへのURLが表示されます。

ウェブ UI にアクセスして Unified Manager の初期設定を行うことができます。詳細については、"Active IQ Unified Managerの設定"を参照してください。

Unified Manager仮想アプライアンスのアップグレードワークフロー

Active IQ Unified Manager のアップグレード

Active IQ Unified Managerリリース9.14または9.16からリリース9.18へのアップグレードのみ可能です。

アップグレード プロセスの実行中は、Unified Managerを使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Managerをアップグレードする前に完了しておいてください。

Unified ManagerをOnCommand Workflow Automationのインスタンスとペアにして使用している環境では、両方の製品のソフトウェアで新しいバージョンを利用できる場合、2つの製品間の接続を解除してから各製品をアップグレードし、アップグレードの実行後にWorkflow Automationの接続を新たにセットアップする必要があります。いずれかの製品のみをアップグレードする場合は、アップグレード後にWorkflow Automationにログインし、Unified Managerからデータを取得していることを確認します。

お使いのシステムがUnified Manager 9.7からアップグレードされている場合、Debianバージョ

> ンのファイルシステムの変更により、9.14から9.18へ直接アップグレードすることはできません。代わりに、推奨されるアップグレードパスに従ってください：9.14 → 9.16P2 → 9.18。

手順

1. "Unified ManagerのISOイメージをダウンロードする"の手順に従います。
2. さらに、"Unified Managerをアップグレードする"に記載されている手順に従ってください。

Active IQ Unified Manager のバージョンに対してサポートされているアップグレードパスを使用してください

Active IQ Unified Managerでサポートされるアップグレード パスはバージョンごとに異なります。

すべてのバージョンのUnified Managerで、新しいバージョンへのインプレース アップグレードを実行できるわけではありません。Unified Managerのアップグレードは、N-2モデルに限定されています。つまり、すべてのプラットフォームにおいて、次の2つのリリースへのアップグレードしか実行できないということです。例えば、Unified Manager 9.14および9.16からUnified Manager 9.18へのアップグレードのみ可能です。

サポート対象よりも前のバージョンを実行している場合は、Unified Managerインスタンスをサポート対象のいずれかのバージョンにアップグレードしてから、最新のバージョンにアップグレードする必要があります。

たとえば、現在Unified Manager 9.9がインストールされていて、Unified Manager 9.14にアップグレードする場合、アップグレード手順は次のようになります。

アップグレード パスの例：

1. 9.11から9.13にアップグレードします。
2. 9.13から9.14にアップグレードします。
3. 9.13から9.16にアップグレードします。
4. 9.14または9.16 → 9.18へのアップグレード

アップグレードパスマトリックスの詳細については、こちら "ナレッジベース（KB）記事"を参照してください。

Active IQ Unified Manager アップグレードファイルのダウンロード

Unified Managerをアップグレードする前に、Unified Managerアップグレード ファイルをNetAppサポート サイトからダウンロードします。

開始する前に

NetAppサポート サイトのログイン クレデンシャルが必要です。

手順

1. NetAppサポート サイトにログインします。

   "NetAppサポート サイト"

2. VMware vSphereでUnified Managerをアップグレードするためのダウンロード ページに移動します。
3. アップグレード用の `.iso`イメージをダウンロードし、ご利用のvSphere Clientからアクセス可能なローカ

ルディレクトリまたはネットワークディレクトリに保存します。

4. チェックサムをチェックして、ソフトウェアが正しくダウンロードされたことを確認します。

Active IQ Unified Manager 仮想アプライアンスのアップグレード

Active IQ Unified Manager仮想アプライアンスは、リリース9.14または9.16から9.18にアップグレードできます。

開始する前に

以下を確認してください。

- アップグレード ファイル、ISOイメージをNetAppサポート サイトからダウンロードしておく必要があります。
- Unified Managerをアップグレードするシステムがシステムとソフトウェアの要件を満たしている必要があります。

  "仮想インフラストラクチャの要件"を参照してください。

  "VMwareソフトウェアとインストールの要件"を参照してください。

- vSphere 6.5以降を使用している場合は、VMware Remote Console（VMRC）をインストール済みであること。
- アップグレードの実行中に、パフォーマンス データの保持期間について、以前のデフォルト設定である13カ月のままにするか6カ月に変更するかを確認するプロンプトが表示されることがあります。変更を確認すると、6カ月を過ぎた過去のパフォーマンス データはパージされます。
- 次の情報を入手していること。
  - NetApp Support Site のログイン資格情報
  - VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャル
  - Unified Managerメンテナンスユーザーの認証情報

アップグレード プロセスの実行中は、Unified Managerを使用できなくなります。実行中の処理がある場合は、Unified Managerをアップグレードする前に完了しておいてください。

Workflow AutomationとUnified Managerを連携させて使用している場合、Workflow Automationでホスト名を手動で更新する必要があります。

手順

1. vSphere Client で、「ホーム」>「インベントリ」>「VM とテンプレート」をクリックします。
2. Unified Manager仮想アプライアンスがインストールされている仮想マシン（VM）を選択します。
3. Unified Manager VM が実行されている場合は、「概要」>「コマンド」>「ゲストのシャットダウン」に移動します。
4. Unified Manager VMのバックアップ コピー（Snapshotやクローンなど）を作成して、アプリケーションと整合性のあるバックアップを作成します。
5. vSphere Clientで、Unified Manager VMの電源をオンにします。
6. VMware Remote Consoleを起動します。

7. 「CDROM」アイコンをクリックし、「Connect to Disk Image File (.iso)」を選択します。
8. `ActiveIQUnifiedManager-<version>-virtual-update.iso`ファイルを選択し、**Open** をクリックします。
9. 「コンソール」タブをクリックします。
10. Unified Managerメンテナンス コンソールにログインします。
11. メインメニューで、*アップグレード*を選択します。

    アップグレード プロセスの実行中はUnified Managerを使用できなくなり、完了後に再開されることを示すメッセージが表示されます。

12. タイプ `y`続けてください。

    仮想アプライアンスが配置されている仮想マシンをバックアップするように通知する警告が表示されます。

13. タイプ `y`続けてください。

    アップグレード プロセスが完了してUnified Managerサービスが再起動されるまでに数分かかることがあります。

14. いずれかのキーを押して次に進みます。

    メンテナンス コンソールから自動的にログアウトされます。

15. *オプション：*メンテナンスコンソールにログインし、Unified Managerのバージョンを確認します。

サポートされているWebブラウザの新しいウィンドウでWeb UIを起動し、アップグレード後のバージョンのUnified Managerにログインします。ただし、検出プロセスが完了まではUIでの作業を実行することはできません。

Active IQ Unified Manager 仮想マシンを再起動する

メンテナンスコンソールからUnified Manager仮想マシン（VM）を再起動できます。新しいセキュリティ証明書を生成した場合やVMで問題が発生した場合は、VMを再起動する必要があります。

開始する前に

- 仮想アプライアンスの電源をオンにする必要があります。
- Unified Managerメンテナンス コンソールにメンテナンス ユーザとしてログインする必要があります。

VMwareの*Restart Guest*オプションを使用して、vSphereから仮想マシンを再起動することもできます。次を参照してください "BroadcomのVMware vSphere PowerCLIコマンドレットリファレンスのRestart-VMGuestコマンドレット。"

手順

1. メンテナンスコンソールで、**System Configuration** > **Reboot Virtual Machine** を選択します。
2. ブラウザからUnified Manager Web UIを起動し、ログインします。

Active IQ Unified Manager の削除

Unified Managerをアンインストールするには、Unified Managerソフトウェアがインストールされている仮想マシン（VM）を削除します。

開始する前に

- VMware vCenter ServerおよびvSphere Web Clientにアクセスするためのクレデンシャルが必要です。
- Unified ManagerサーバからWorkflow Automationサーバへのアクティブな接続をすべて終了しておく必要があります。
- 仮想マシン（VM）を削除する前に、Unified Managerサーバからすべてのクラスタ（データ ソース）を削除しておく必要があります。

手順

1. Unified Managerメンテナンス コンソールを使用して、Unified Managerサーバから外部のデータ プロバイダへのアクティブな接続がないことを確認します。
2. vSphere Client で、「ホーム」>「インベントリ」>「VM とテンプレート」をクリックします。
3. 削除するVMを選択し、*概要*タブをクリックします。
4. VMが実行中の場合は、**Power** > **Shut Down Guest** をクリックします。
5. 削除するVMを右クリックし、*ディスクから削除*をクリックします。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、http://www.netapp.com/TMに記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。